



メークの設計

明治二十年、メークの調査に始まり、昭和八年築港完成まで四十七カ年、実に半世紀にわたろうとしている。

その間の設計変更について工事計画と実施工事の概要を記すことにしよう。

明治二十年（一八八七年）留萌川の下流部を利用する案で、海底地質調査のボーリング、水深測定、風速測定などをもって地勢を調査する。

設計としては、全工費百二十二万八千円で、工事内容は西堤、東突堤、内港東堤、岸壁、河口突堤、浚渫である。

内容は、留萌川下流部を利用、河口部を被護する。

西堤および東堤を築設、川の下流部を浚渫し、岸壁を設ける。であったが、この案は実施の運びにならなかつた。

留萌市史 ①⑥

港づくり初のケーソン

海上輸送に着手

ならなかつた。

第一期拓殖計画

本港の地勢は東南の二方丘陵に囲まれているが、この地方で最も強烈な風向となる西北は、全く開放されている。

このため晩秋から冬期は船舶が附近にも近寄れぬ状態であった。したがって工事上からみれば、非常な難工事なため、幾度か設計変更を重ね、また完成まで長い歳月を要した。

当初の計画では、工事期間は明治四十三年から十二カ年で、内外

港面積四十六万六千坪（百五十三万八千平方尺）工費三百九十二万二千五百円、大正五年と九年の二度にわたって改訂がなされた。

第二期拓殖計画

大正十五年、第二期拓殖計画をたてる時に、技師伊藤長右衛門が設計し、第一期拓殖計画のときの残程全部を編入し昭和八年に完成した。

超工以来実に二十四年の歳月を要している。

工事総額は千九十三万一千円である。

防波堤の構造をみると、本港は十月下旬より翌一月にいたる四カ月間は西風が強く、中でも十一月、十二月は最も強烈である。

南防波堤は地形の関係上直角に怒涛の猛襲で、一個二千トンもあるケーソンが内側へ数メートルも動かされることがしばしばあったケーソンの海上運搬は南防波堤の伸びない内は冬の間にケーソン製造場が砂で埋まり、春にはその復旧に手間どったので、小樽築港工場で製造、海路五十六哩を曳船運速した。

これは所長伊藤長右衛門の考えたことであり、その実行は技師林千秋（第三代所長）と小樽の造船業者坂下重太郎の緻密な計画のもとで行なわれた。



CSメーク

ケーソンの海上運搬は初めてのこと、築港史上特筆すべき功績といえよう。

この経験を生かして後に小樽から岩内まで同じ方式で運んだというが、この作業は簡単なことではない。

つまり、小樽、留萌間は石狩湾を航して雄冬岬に至るまでと、同岬から留萌に至るまでの航海は氣象状況が同一でも船が受ける航海状況は同一ではない。

また、小樽から岩内に至る航路は積丹岬、岩内に至るコースも同様ではない。

このような難航海を成功させた船長、その他の当事者の苦心も推察できるが、またその勇氣と忍耐は絶讃に価する。



■文芸書 / 平良少年 結城昌治 / 空の果てまで 高橋たか子 / 華麗なる一族 山崎豊子 / ムツゴウの大漁旗 畑 正憲 / 見込みのない種子 バージェス / 春のいそぎ 立原正秋 / 流民の都 石牟礼道子 / 奇蹟 曾野綾子 / 引きさかれた空 ヴォルフ / 悔いなき命を岡田嘉子 / 生命に刻まれし愛のたみ 三浦綾子 / オロチョンの上野浚弘。

■実務・教養書 / 日本の黒い霧 松本清張 / 母心 高瀬広居 / ニューギニア高地人 本田勝一 / 天声人語 朝日新聞 / 赤ちゃんのタブー集 村松博雄 / ひとりっ子 依田 明 / おばあちゃんの料理術 井上鶴子 / 少年期 波多野勤子 / 三歳児 園原太郎 / ボクできちゃったー5歳までの算数の教え方 エンゲルマン / 毛沢東 ハン・スーイン

図書館は今月いっぱい休館

市立図書館は、新しく建設された中央公民館（見晴町）へ移転のため、今月いっぱい休館し、7月2日から業務を再開します。

市民の皆様にご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。